

協議体での話し合いが形になったきっかけ

住民ニーズを把握するために実施した住民アンケートは、住民の気づきを促すきっかけにもなりました。

協議体での話し合いが形になったきっかけ！

犬山市
第2層生活支援
コーディネーター

生活支援コーディネーターと協議体

犬山市では平成29年4月から市内5圏域の地域包括支援センターに各1人、第2層生活支援コーディネーター(2SC)を配置し、地域の支えあいの体制づくりのための話し合い(協議体)を重ねてきました。



【犬山北地区の場合・・・

- 課題として感じていたこと
- ◇協議体では地域の話が出てくるだけで、その先へ話が進まない。
- ◇「生活支援」「声かけ」「介護予防」教科書に書いてあるような地域課題は本当に住民のニーズとしてあるの？
- ◇協議体の参加者は住民の一部。多くの人はどんなことに困っているのだろう？

アンケートをやってみるか！

天神町地域づくりに関するアンケート (平成30年7月実施)

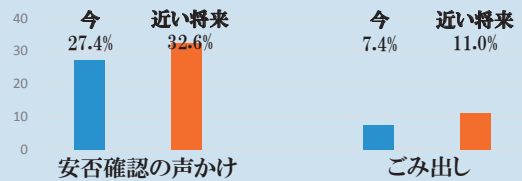


- 2SCと包括が取りまとめ
- 天神町369世帯に配付 (1世帯に1枚)
- 郵送にて回収

例) ご近所付き合いはありますか？
どんなことを助けてほしいですか？

アンケートから見えてきたこと(回収率43.1%)

Q:手伝ってほしいことはありますか？



アンケート報告会の実施

平成30年10月27日(土) 午後1時30分～
参加者43人



「この先こんな事に困るんだ！」
「自分たちの問題だよね！」

- ◆多くの意見を吸い上げる手段としてだけでなく、住民が地域の問題に気づき、動き出すきっかけづくりとして、「アンケート配付」というプロセス自体がとても効果的に作用した。
- ◆町内会だけでアンケートを実施したことで「我が事」としての考えが住民に芽生えた。
- ◆地域の支え合いについて関心を持ち始めた天神町は、2SCや包括のサポートを受けつつ、3か月に1回の支え合い会議を行っている。
- ◆支え合い会議は、毎回、白熱した意見が飛び交い、助け合いや担い手の発掘に繋がる体制づくりを進めている。

今は形にならないことも多々あるけど、継続していくことが大切

